

一般科目 カリキュラム

● 基礎科目

数学

数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
多変数の微分積分学
行列式と行列の応用

英語

英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
英会話Ⅰ、Ⅱ

理科

物理Ⅰ、Ⅱ
化学、総合理科Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

基礎科目
(必修科目)

社会

地理・歴史Ⅰ、Ⅱ
政治・経済Ⅰ、Ⅱ
倫理・社会

国語

国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

体育

保健・体育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

● 応用科目

4 年

5 年

【選択１】

- 現代社会論Ⅰ…①
- スポーツ科学
ラケット・コース…②
ゴルフ・コース…③
トレーニング・コース…④

【選択２】

- ①近代と文学
- ②国語表現
- ③法学 ④経済学
- ⑤工芸（半期のみ）
- ※前期・後期の２回開講

【選択１】

- 東アジアの
中の日本…①
- 健康科学
ゴルフ・コース…②
レクリエーション・コース…③
- 英語Ⅴ…④

【選択２】

- ①現代日本文学
- ②古典文学
- ③哲学
- ④現代社会論Ⅱ
- ※前期・後期の２回開講

● 特別選択科目

科目名	開講学年	開講期間	内 容
数学応用力養成セミナー	3～4年	前期	「数学Ⅱ」演習
英語応用力養成セミナー	3～4年	後期	「英語Ⅱ」演習
進路支援セミナー（数学）	4, 5年	後期	公務員受験支援講座
進路支援セミナー（英語）	4, 5年	後期	TOEIC受験支援講座
進路支援セミナー（小論文）	4, 5年	後期	小論文対策講座
一般科セミナー			資格・外部試験の単位認定 「実用英語技能検定」「実用数学技能検定」 「漢字能力技能検定」等

平成25年度 一般科目 授業科目と担当教員

区分1	区分2	(細目)	授業科目	単位数	3年	4年	5年	科目担当	備考
必修科目	基礎	国語	国語Ⅰ	2					
			国語Ⅱ	2					
			国語Ⅲ	2	2				
		社会	地理・歴史Ⅰ	1					
			地理・歴史Ⅱ	2					
			政治・経済Ⅰ	1					
			政治・経済Ⅱ	1	1				
			倫理・社会	2	2				
		数学	数学Ⅰ	6					
			数学Ⅱ	6					
			数学Ⅲ	4	4				
			多変数の微分積分学	1		1			
			行列式と行列の応用	1		1			
		理科	化学	3					
			物理Ⅰ	3					
			物理Ⅱ	2	2				
			総合理科Ⅰ	1					
			総合理科Ⅱ	1					
		体育	保健・体育Ⅰ	3					
			保健・体育Ⅱ	2					
			保健・体育Ⅲ	2	2				
		外国語	英語Ⅰ	5					
			英語Ⅱ	4					
			英語Ⅲ	5	5				
			英語Ⅳ	2		2			
			英会話Ⅰ	1					
			英会話Ⅱ	1					
			開設単位	67	19	4			
			履修可能単位	67	19	4			
選択科目	応用科目	人文	近代と文学	1		1			
			国語表現	1		1			
			日本現代文学	1			1	池田	G03
			古典文学	1			1	道園	G04
		社会	法学	1		1			
			経済学	1		1			
			哲学	1			1	小林	G05
			現代社会論Ⅰ	2		2			
			現代社会論Ⅱ	1			1	遠山	G06
			東アジアの中の日本	2			2	今西(非), 時松	G07
		自然	スポーツ科学	2		2			
			健康科学	2			2	四宮, 川尾	G08-G09
		芸術	工芸	1		1		今年度開講せず	
		外国語	英語Ⅴ	2			2	岩下・石貴	G10
			開設単位小計	19		9	10		
			履修可能単位	8		4	4		
	特別選択科目	基礎	数学基礎定着セミナーa	1					
			数学基礎定着セミナーb	1					
			英語基礎定着セミナー	1					
			情報基礎定着セミナー	1					
		応用	数学応用力養成セミナー	1	1				
			英語応用力養成セミナー	1	1				
		発展	進路支援セミナー(数学)	1		1		五十川	G11
			進路支援セミナー(英語)	1		1		宇ノ木・石貴	G12
			進路支援セミナー(小論文)	1		1		道園, 池田, 小林, 時松, 遠山	G13
		外部	一般特別セミナー	4				資格・外部試験の単位認定 「英語検定」「数学検定」 「漢字検定」等	G14
			開設単位小計	9	2	5	3	* 一般特別セミナー(外部単位)を除く	
			履修可能単位	8	1	2	1	履修単位数は例示	
			開設単位	28	2	14	13	* 一般特別セミナー(外部単位)を除く	
			開設単位合計	95	21	18	13	* 一般特別セミナー(外部単位)を除く	
			基礎履修単位	75	19	8	4	* 特別選択を除く履修可能単位	
			履修可能単位(基礎履修+特別選択)	83	20	10	5	* 一般特別セミナー(外部単位)を除く	

【授業科目名】 日本現代文学
Modern Literature

【対象クラス】 5 年生全学科

【科目区分】 応用科目・選択
(教育目標との対応：A-1)
(JABEE 基準との対応：a, b)

【授業形式・単位数】 講義・1 単位(学修単位)

【開講期間・授業時数】 前期、後期・30

【担当教員】 池田翼 (共通教育科)
(教員室) 一般科目棟 1F 池田教員室

【科目概要】

日本現代文学を中心にした作品の読解を通して、**文学作品の基本的な「読み」の方法**を身に着ける。

また、多様な作品の鑑賞を通して、**文学的思考の涵養や人間の多様性への理解**を目指す。

【授業方針】

テキストおよび適宜配布するプリントを用いて、近代から現代にいたるまでの日本文学作品を取り上げ、**作家論的背景・同時代的状況を加味しながら読解を試み、作品への理解を深める**。講義終了時には、小課題を出す。

【学習方法】

- ・各授業で取り上げた作品について、授業後論点を整理しておくこと。
- ・また、他の学生による自分の視点とは違った「読み」について、その「読み」に至った過程を考察し、次回からの自分の「読み」の多層化に向けて吸収すること。

【達成目標】

1. □「戦前の日本文学」について、作家論的背景・同時代的状況を踏まえた上での自分なりの「読み」を展開できる。
2. □「昭和20年代の日本文学」について、作家論的背景・同時代的状況を踏まえた上での自分なりの「読み」を展開できる。
3. □「昭和30年代の日本文学」について、作家論的背景・同時代的状況を踏まえた上での自分なりの「読み」を展開できる。
4. □「昭和40年代の日本文学」について、作家論的背景・同時代的状況を踏まえた上での自分なりの「読み」を展開できる。
5. □「昭和50年代から平成の日本文学」について、作家論的背景・同時代的状況を踏まえた上での自分なりの「読み」を展開できる。

【教科書等】

教科書：
『日本の近代小説（改訂版）』（熊本近代文学研究会）

【授業スケジュール】

1. 「戦前の日本文学」（1）
2. 「戦前の日本文学」（2）
3. 「戦前の日本文学」（3）
4. 「昭和20年代の日本文学」（1）
5. 「昭和20年代の日本文学」（2）
6. 「昭和30年代の日本文学」（1）
7. 「昭和30年代の日本文学」（2）
8. [中間試験]
9. 「昭和40年代の日本文学」（1）
10. 「昭和40年代の日本文学」（2）
11. 「昭和40年代の日本文学」（3）
12. 「昭和50年代から平成の日本文学」（1）
13. 「昭和50年代から平成の日本文学」（2）
14. 「昭和50年代から平成の日本文学」（3）
15. 「昭和50年代から平成の日本文学」（4）
[期末試験]

【関連科目】

国語Ⅰ（1年必修）、国語Ⅱ（2年必修）、国語Ⅲ（3年必修）、国語表現・近代と文学（4年選択）、古典文学（5年選択）

【成績の評価方法と評価基準】

毎時の小課題（20％）と、試験の点数（80％）を総合して成績を算出する。

【学生へのメッセージ】

授業への質問や要望は、メール・来室問わず随時受け付けます。

作品を読解するにあたっては、あなた独自の「読み」を展開できるように取り組んでください。独自の「読み」とは、作家論的背景や同時代的状況を抑えつつも、既存の読解・固定観念にとらわれることなく、あなた自身の感性で作品に向き合うことで生まれてきます。毎時の小課題にて、皆さんの多様な「読み」が展開されることを期待しています。伸びやかな感性・柔軟な思考で授業に取り組んでください。

【授業科目名】 古典文学
Classical Literature

【対象クラス】 5 年全学科

【科目区分】 応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1)

(JABEE 基準との対応：a,b)

【授業形式・単位数】 講義・1 単位(学修単位)

【開講期間・授業時数】 前期，後期・30

【担当教員】 道園達也 (共通教育科)

(教員室) 共通教育棟1F 道園教員室

【科目概要】

古典は日本人の生活や価値観のなかに生き続けている。人生や社会、自然に対する思想や感情は人間の本質に触れ、読者の心に感動を与える。

『平家物語』に書き記された人々の生き方を的確に読みとり、私たちの生き方を考えたい。

【授業方針】

古文への抵抗感をやわらげ、その世界がもっと身近に感じられるように配慮したい。

『平家物語』の名場面を取り上げる。本文は岩波文庫版『平家物語』を底本として、プリント教材を作成、配布する。音読、および古典文法の基礎を踏まえた読解(現代語訳)によって、その主張の理解を試みたい。長い期間にわたって、多様な形で受容されてきた『平家物語』を、可能な限り〈私たち〉の物語として読むことを目指す。

【学習方法】

- ・毎回、次回のプリントを配布するので、事前に目を通しておくこと。
- ・授業時の解説を参考に、論点整理を行うこと。

【達成目標】

1. □古文を音読し、その調子を味わう。
2. □古典文法の基礎を踏まえて、古文の意味を適切に読解(現代語訳)できる。
3. □古文の主張が適切に理解できる。
4. □自分の考えを文章で表現することができる。
5. □他人の考えを理解し、自分の考えを深めることができる。

【教科書等】

教科書：配布プリント

参考書：『平家物語』全4巻、岩波文庫

その他、授業で紹介。

【授業スケジュール】

1. 祇園精舎 (巻第一)
2. 座主流 (巻第二)
3. 赦文 (巻第三)
4. 厳島御幸 (巻第四)
5. 都遷 (巻第五)
6. 新院崩御 (巻第六)
7. 清水冠者 (巻第七)
8. [中間試験]
9. 山門御幸 (巻第八)
10. 生ズキノ沙汰 (巻第九)
11. 首渡 (巻第十)
12. 逆櫓 (巻第十一)
13. 大地震 (巻第十二)
14. 女院出家 (灌頂巻)
15. [期末試験]
15. 試験返却・解説

【関連科目】

国語Ⅰ (1 年) 国語Ⅱ (2 年) 国語Ⅲ (3 年)

国語表現、近代と文学 (4 年) 日本現代文学 (5 年)
スピーチコミュニケーション、郷土の文学と人間 (専2)

【成績の評価方法と評価基準】

- * 達成目標 1～3 は定期試験で確認する。
- * 達成目標 4・5 は授業中の活動と小課題で確認する。
- * 成績は、定期試験 80%、授業中の活動と小課題 20%として算出し、60 点以上で合格とする。
- * 60 点に満たない学生は、再試験を実施することもある。

【学生へのメッセージ】

質問や要望は随時受け付けます。教員室前にスケジュール表を掲示しているので、在不在を確認してください。また、メールも活用してください。

諸君の積極的な参加を期待します。

【授業科目名】哲 学 Philosophy

【対象クラス】5 年全学科

【科目区分】応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1, D-1)

(JABEE 基準との対応：a, b)

【授業形式・単位数】講義・1 単位 (学修単位)

【開講時期・授業時数】前期、後期・30

【担当教員】小林 幸人 (共通教育科)

(教員室) 一般科目棟 1 F 小林教室

【科目概要】

本講義では、現代社会における様々な問題を哲学的に考察することを通じて、幅広い視野で実際の問題を捉える訓練をおこなうことを目標とします。

【授業方針】

今年度は主に「認識と世界」「科学・技術と人間」「現代の倫理」というテーマを取り扱います。前期、後期ではテーマは異なりますが、哲学的な思考を体験することを主たる目的としています。

授業は講義中心におこないますが、それぞれのテーマについて、様々な哲学者の考え方を紹介しながら、最終的にはみなさん自身にその問題について考えてもらい、レポートを提出してもらいます。

【学習方法】

- ・ 授業での説明に関しては、議論全体の流れを理解するようにしてください。
- ・ 各テーマに関する論点を指示しますので、テキストや参考文献をよく読んでおいてください。
- ・ テキストや授業の説明で補えない部分については、図書館の文献等を参考に学習してください。

【達成目標】

1. □哲学的な思考について理解できる。
2. □テーマについて、何が問題となっているのかを理解し、説明できる。
3. □テーマの論点を整理し、指摘することができる。
4. □自分の考えを論理的に説明できる。
5. □自分の問題関心に沿ってテーマを設定し、それについて論理的に論述することが出来る。

【教科書等】

教科書：特に指定しない。適宜資料を配付する。

参考書：「現代哲学の招待」城塚登他 有斐閣選書

「科学哲学」 小林道夫 産業図書

【授業スケジュール】

【前期】

1. ガイダンス 問題提起：認識と世界の存在
2. 近代的世界観：デカルトとベーコンの思想
3. 主観-客観と認識論上の問題
4. 自然科学の方法：実証主義
5. 科学的相対主義：理論負荷性のテーゼとパラダイム論

6. 哲学的認識論(1)：カントの認識論

7. 哲学的認識論(2)：フッサールの認識論

8. 〔中間試験〕

9. 中間試験の返却と解説

10. 近代科学の精神

11. 科学技術がもたらす諸問題

12. テクノロジーとヒューマニズム：ハイデガーの技術論

13. 科学技術者の責任

14. 科学・技術と社会：STS (科学技術社会論)

15. 総括：現代社会と科学技術

〔前期末試験〕

【後期】

16. 問題提起：価値問題と事実問題～科学と哲学～

17. 道徳哲学の系譜

18. 義務論と功利主義：道徳哲学の理論

19. 倫理とは何か？

20. 価値相対主義

21. 個人と他者、および社会

22. 倫理規範の妥当性

23. 〔後期中間試験〕

24. 試験の返却と解説

25. 科学技術と現代社会：現代社会の倫理問題

26. 応用倫理学(1)：環境倫理

27. 応用倫理学(2)：生命倫理

28. 応用倫理学(3)：情報倫理

29. 応用倫理学(4)：技術者倫理と企業倫理

30. 総括：科学技術と現代社会

〔学年末試験〕

【関連科目】

本科3年「倫理・社会」、本科4年「現代社会論Ⅰ」

専攻科1年「技術倫理」、専攻科2年「生産と法」

【成績の評価方法と評価基準】

2回の試験とレポートによって評価します。試験とレポートの割合は以下のとおり。

試験…80% (目標1～3)、レポート…20% (目標4, 5)

試験では、授業内容の理解を評価し、レポートでは受講者の問題意識、論理的思考力、文章・構成力を評価します。なお、レポート未提出者は不合格とします。

成績不振者に対しては、学期毎に再試験を行い、60点を超えない範囲で再評価します。

【学生へのメッセージ】

暗記ではなく、自ら考えるということが必要です。様々な考え方を覚えるだけでなく、何を問題としているのかという点を理解するよう心がけてください。

質問・要望等についてはいつでも対応します。スケジュールを確認して来室してください。また、授業の際に質問用紙を配布しますので、積極的に利用してください。メールでの質問にも対応します。

【授業科目名】 現代社会論Ⅱ
Social Theory II

【対象クラス】 5年全学科

【科目区分】 応用科目・選択
(教育目標との対応：A-1, G-1)
(JABEE 基準との対応：a, b, g)

【授業形式・単位数】 講義・1単位(学修単位)

【開講期間・時間数】 後期・100分

【担当教員】 遠山 隆淑 (共通教育科)
(教員室) 一般棟3F 遠山教員室

【科目概要】

現在生じている様々な問題を、単なる一時的現象として捉えるのではなく、そうした問題のより深い問題性に気づき、それについて考え抜く強靱な思考力を身につけてほしい。そのために、本講義では、ヨーロッパの思想を、「政治と宗教(キリスト教)」、「権力」、「デモクラシー」というテーマに分け、テーマごとに重要な著作を残した哲学者やその著作に注目しながら歴史的に論じていく。

【授業方針】

本講義は、マキアヴェッリ『君主論』など、政治や社会について論じた「古典」の重要箇所を記載した「講義資料」をじっくり読みながら、その内容を詳細に解説するというスタイルで行われる。「古典」という重厚な書物の読解を通じて、今後、様々な書物を自力で読むことができるようになるための方法を提示していく。

【学習方法】

- ・ 毎回のノートをきちんととること。ノート作りは、他人の話の要点を読みとるための最適の訓練の場となるため、絶対におろそかにしてはならない。
- ・ そのノートをもとに、講義の内容を自分自身でストーリー化して、講義全体の内容を自分の言葉でかみ砕いて理解する。
- ・ 自分で古典を読むことにチャレンジしてほしい。

【達成目標】

1. □キリスト教の思想について理解できる。
2. □宗教(キリスト教、教会組織)と現世の世界との関係について理解できる。
3. □権力について、マキアヴェッリの思想を参照しながら説明することができる。
4. □デモクラシーの特徴について、ルソーの思想を参照し説明することができる。
5. □一人の独立した社会的存在として、自らを取り巻く社会について、自力で深く考えることができる。

【教科書等】

教科書：講義レジュメと講義資料を配布する。
参考書：佐々木毅他『西洋政治思想史』北樹出版。
その他、講義で適宜紹介する。

【授業スケジュール】

1. イントロダクション
2. 政治と宗教①—イエスと原始キリスト教
3. 政治と宗教②—イエスと原始キリスト教
4. 政治と宗教③—アウグスティヌスと悪の問題
5. 政治と宗教④—アウグスティヌスと悪の問題
6. 政治と宗教⑤—アウグスティヌスと悪の問題
7. 文章作成指導
8. [中間試験]
9. 権力①—マキアヴェッリ『君主論』
10. 権力②—マキアヴェッリ『君主論』
11. 権力③—マキアヴェッリ『君主論』
12. 権力④—マキアヴェッリ『君主論』
13. デモクラシー①—ルソー『社会契約論』
14. デモクラシー②—ルソー『社会契約論』
15. デモクラシー③—ルソー『社会契約論』

【関連科目】

関連する科目としては、地理・歴史(2年)、政治経済Ⅱ(3年)、倫理・社会(3年)、現代社会論Ⅰ(4年)、法学(4年)、哲学(5年)。

【成績の評価方法と評価基準】

- * 1～5の達成目標について定期試験に主にに基づき評価する。加えて、授業ノートも評価対象にする。
- * 成績評価の割合は次の通り。前期中間試験(50%)期末試験(50%)。
- * 上記で算出した最終成績が60点以上で合格とする。60点未満の学生には、再試験を実施することもある。

【学生へのメッセージ】

「古典」を読み解説するという非常に高度な講義内容だと思いますので、講義で何が言われているのか、講義後に自分自身で熟考してみてください。分からない場合や、自分で何か思いついたら、ぜひ質問や議論をしに教員室に来てください。古典を読むという経験は、人生の中でも得難いものであり、また、人生をとて豊かにしてくれるものでもあります。はじめは取っつきにくいかもしれませんが、この講義を通じて、ぜひ古典そのものにチャレンジしてみてください。

【授業科目名】東アジアの中の日本**East Asian studies****【対象クラス】**5 年全学科**【科目区分】**一般応用科目・選択

(教育目標との対応：A-1,A-2,G-2)

(JABEE 基準との対応：a, b, g)

【授業形式・単位数】講義・2 単位 (学修単位)**【開講期間・授業時数】**通期・60**【担当教官】**今西利之(熊本大学国際化推進センター)
時松雅史(共通教育科)

(研究室)一般科目棟 1F 時松研究室

【科目概要】

この授業では、**日本語教育**の歴史や現状を概観するとともに、言語としての日本語を客観的に見つめ直すための基本的な考え方について解説する。

日本はアジアの東端に位置し、歴史上、大陸からの高度な文化の摂取に成功し発展してきた。その日本の文化や生活について東アジアの近代の歴史の中で考えたい。最後に中国・韓国をはじめとする**東アジアの経済**を日本経済のかかわりについて解説する。

【授業方針】

日本語教育の概要、関連する社会問題を概観するとともに、具体的な言語事実をもとに、**日本語学・言語学**で用いられる基本的な概念を解説することを通じて、日本や日本語を意識的、客観的に分析する視点を養う。

東アジアにおいての日本の位置関係を理解させ、形成された文化(食文化)を考えさせる。さらに戦後の**東アジアの発展**について概説をおこなう。

【学習方法】

授業の復習を確実に行う。具体的には資料をもう一度読み直し、ノートも見直して自分で補足を入れておく。不明な点があればチェックして教員に質問するか、図書館で調べる。

【達成目標】

1. □日本とアジア諸国の関わりについて理解できる。
2. □日本語を**日本語学・言語学**的な観点から分析できる。
3. □日本語を分析するための**基本的概念**を理解できる。
4. □**日本語学習者**から見た日本語がどのようなものであるかを考えることができる。
5. □島国である日本が、東アジアの中で孤立した存在ではなく、むしろ積極的に門戸を開放していたことが理解できる。
6. □東アジアの近代史を経済的な観点から理解できる。
7. □**東アジア経済**と日本経済についての関わりを理解できる。

【教科書等】【教科書等】

教科書：講義内容に即したプリント(日本語、文化、アジア経済)を配布する。

参考書：『新しい日本語学入門』庵功雄 スリーエーネットワーク

『日本語教育指導参考書 22 日本語教育のための文法用語』国立国語研究所

『ジャガイモのきた道』山本紀夫

『中国経済論』加藤弘之他 ミネルヴァ書房

【授業スケジュール】

1. 母語としての日本語
2. ある言語としての日本語
3. 外国人による日本語学習
4. 日本語教育の歴史(1)
5. 日本語教育の歴史(2)
6. 多言語社会の課題(1)
7. 多言語社会の課題(2)
8. (中間試験)
9. 日本語教育と文法(1)
10. 日本語教育と文法(2)
11. 日本語教育と文法(3)
12. 日本語の**音声・音韻**(1)
13. 日本語の音声・音韻(2)
14. 方言(前期末試験)
16. 屋敷囲いの石垣について
17. 砂糖と日本
18. 醤油と日本
19. お茶と日本
20. **イモと日本**
21. 朝鮮半島とトウガラシ
22. 欧米による植民地支配
23. (中間試験)
24. **中国の対外開放政策**と日本企業
25. 世界の工場中国と日本企業
26. 朝鮮半島と日本
27. **韓国**の発展
28. 「**日本の台所**」としての東南アジア
29. **アジア経済の発展**と日本(1)
30. **アジア経済の発展**と日本(2)

【関連科目】

地理・歴史Ⅰ・Ⅱ、経済学 地域経済論

【成績評価】

定期試験(4回)の平均により評価する。

【学生へのメッセージ】

普段から、日本語のさまざまな言語事実疑問をもち、日本文化に目を向け、自分の言葉で説明できるようにしてください。

質問は随時受け付けます。教員室前には授業、行き先を掲示しているのでスケジュールを確認して来室して下さい。また、メールアドレスも掲示しているので活用してください。

【授業科目名】 健康科学（ゴルフコース）**Health Science（Golf）****【対象クラス】** 5 年生選択**【科目区分】** 応用科目・選択

（教育目標との対応：A-3,G-2）

（JABEE 基準との対応：c, e, g, h）

【授業形式・単位数】 講義及実技・2 単位**【開講時期・授業時数】** 通期・60**【担当教員】** 四宮 一郎（共通教育科）

（教員室）共通教育棟 1F 四宮教員室、第 1 体育館

【科目概要】

健康科学は、**生涯にわたる健康づくり（運動・休養・栄養）**という観点で授業を展開する。また、自己の体組成及び体力について年間 4 回の測定を行い、自己の体組成及び体力の変化を認識する。実技については、各技術を分析し、運動力学やスポーツ心理学からゴルフを科学する。

【授業方針】

高専時代での学習に留めるのではなく、将来の生活における**健康や安全**に活用する態度を養う。また、実技は、安全を第一に、効率よく技術を会得させる。さらに、時間厳守と道具や施設の維持管理を励行することを強く望む。

【学習方法】

○健康に関する正しい情報を講義や新聞やテレビ等のマスコミから入手し、きちんと整理して実践する。
○ゴルフのスイングは、使用するクラブの**ロフト**どおりにボールを捉えることで距離や方向などの精度がきまる。よって、膝・腰・上体を望ましい姿勢で保ち、安定した**重心移動**を体得する。授業以外の時間帯で実践すると上達は早い。また、ビデオを活用するか複数で練習し、お互いのフォームを指摘しあうと欠点箇所が素早く修正でき、正確なショットができるようになる。授業は、毎回、前半を第 1 体育館にて講義を行い、後半にゴルフの実技を行う。

【達成目標】

1. □スポーツ選手の食事のあり方が理解できる。
2. □日常生活における身体活動水準が理解できる。
3. □運動不足と生活習慣病との関係が理解できる。
4. □各年代が抱える健康問題が理解できる。
5. □各種技術を会得することができる。
6. □用途によるクラブ選択が適確にできる。

【教科書等】

必要に応じ、資料を配布または、掲示するが、インターネットを活用し、最新の健康情報を入手し、日常生活の中で実践するなど自学自習に努める。

【授業スケジュール】

1. 授業方針と評価について・体力の自己測定

2. QOLと運動・体組成の自己測定
3. 現代の健康問題（生活習慣病）
4. 健康ブームとその背景（健康不安の増大）
5. 心の健康とは
6. 形態の意味
7. 脂肪蓄積のメカニズムとその影響
- 8～9. 前期中間試験 試験の解答
10. 適切な栄養・食事摂取
11. ストレス論
12. 嗜好と依存症
- 13～14. 体組成及び体力の自己測定
〔前期末試験〕
15. 試験の解答
16. 運動とエネルギー
17. 酸素摂取の仕組み
18. 有酸素運動がもたらす効果
19. 適切な有酸素運動
- 20～21. 体組成及び体力の自己測定
22. 〔後期中間試験〕
23. 試験の解答
24. 「身体技法」としての動き
25. 体力とトレーニング論
26. 筋力・パワー・筋持久力トレーニング
27. パフォーマンス発揮と心理
- 28～29. 体組成及び体力の自己測定
〔学年末試験〕
30. 試験解答

【関連科目】

スポーツ科学、保健体育Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ

【成績評価の評価方法と評価基準】

技術 20%、理論 80%、で評価する。ただし、出席時間数が規定に達しない場合は、評価しないので、公欠届け（就職等は事前に、忌引きは直後に提出する。）

【学生へのメッセージ】

前夜の睡眠、朝食を十分にとり、体調を整え、参加すること。週 1 回の授業だけでは必要な運動量の確保は難しいので、授業等で学習した知識や技術を日常生活の中で大いに活用して運動不足状態にならぬよう心がけて欲しい。

安全な授業展開のために、指輪・ネックレス・ピアスなどの装飾品は身に付けないこと。また、指定した体育服を着用して出席すること。

健康づくり。体力づくり、保健体育の授業内容やスポーツ関係の質問は、昼休みと放課後に教員室および第一体育館教員控室にて受けます。また、ゴルフの特別指導は 4 時限目（17 時まで）ゴルフ練習場にて実施します。

【授業科目名】健康科学

(レクリエーションコース)

Health Science (Recreatoion)

【対象クラス】5年生全学科

【科目区分】応用科目・選択

(教育目標との対応：A-3, G-2)

(JABEE 基準との対応：c, e, g, h)

【授業形式・単位数】講義及び実技・2単位

【開講時期・授業時数】通期・60

【担当教員】川尾勇達 (共通教育科)

(研究室) 一般科目棟 1F 川尾教員室・第1体育館

【科目概要】

生涯にわたり**健康**な生活を送るためには、**運動**は欠かせないものである。**生活習慣病**が社会問題となっている今日、運動を日常生活の一部として行っている人も少なくない。そこで本コースでは**生涯スポーツ**の見地から、健康に関する知識を土台とし、年齢に応じたスポーツ(ニュースポーツ)やゲームを取り入れ、レクリエーションの持つ社会的役割と余暇の善用および運動の必要性を学び、日常生活に役立てるようにする。

【授業方針】

授業は講義と実技からなり、100分の内前半50分を講義、後半50分は実技を行う。

講義については、レクリエーションの持つ社会的役割や軽スポーツ、ゲームの紹介、さらに社会で必要とされる健康に関する知識を習得する。

実技については、様々な軽スポーツやゲームを体験し、その楽しさを味わい、ルールやマナー指導法についても理解する。

【学習方法】

1. 授業中に配布した資料を読み、よく理解しておくこと。
2. レクリエーションに関する資料をインターネットや図書館を活用し、収集しておくこと。

【達成目標】

1. □レクリエーションの意味を理解し、分類することができる。
2. □レクリエーションが人に与える効果について理解することができる。
3. □レクリエーションの企画、運営について理解することができる。
4. □レクリエーションの指導法について理解し、実践することができる。
5. □健康と運動の関係を理解し、説明することができる。

6. □科学的視点から身体で行われている現象をとらえ、理解することができる。
7. □生活習慣病についての知識及びその改善方法を理解し、説明することができる。
8. □飲酒・喫煙の体への影響について理解し、説明することができる。

【教科書等】

参考書：「レクリエーション活動の実際」

池田勝 西野仁 永吉宏英 杏林書院

「新しい軽スポーツのすすめ」(体育を楽しく)

富山浩三他 杏林書院

その他適宜資料等配布する。

【授業スケジュール】

1. 健康科学の授業方針と評価方法について
2. レクリエーションとは何か
レクリエーションの分類
3. レクリエーションの効果
- 4～7. レクリエーションプログラムの企画と運営
8. (前期中間試験)
9. 前期中間試験の返却と解説
- 10～12. 健康と運動
- 13～14. 生活習慣病
(前期末試験)
15. 前期末試験の返却と解説
- 16～18. 生活習慣病と運動・食事
- 19～20. 運動量の計算(カロリーとメッツ)
- 21～22. 栄養素と食事とカロリー
23. (後期中間試験)
24. 後期中間試験の返却と解説
- 25～26. 飲酒と健康
- 27～28. 喫煙と健康
29. 疾病(感染症と予防)
(学年末試験)
30. 学年末試験の返却と解説

【関連科目】

4年スポーツ科学 保健体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

【成績の評価と評価基準】

* 4回の定期試験と実技の習得状況を総合して行う。
* 定期試験の平均点〔80%〕+実技〔20%〕

【学生へのメッセージ】

始業時間を厳守すること。また、本授業で学んだ知識を今後の日常生活にいかし、生涯にわたり健康な生活を送ることができるよう努力して欲しい。

質問は随時受け付けます。スケジュールを確認して来室して下さい。

【授業科目名】英語Ⅴ English Ⅴ

【対象クラス】5 年全学科

【科目区分】基礎科目・選択

(教育目標との対応：F－2，F－3，A－2)

(JABEE 基準との対応：f，b，a)

【授業形式・単位数】講義・2 単位

【開講時期・授業時数】通期・60

【担当教員】岩下 いずみ (共通教育科)

(教員室) 共通教育科目棟 3F 岩下教員室

石貫 文子 (共通教育科)

(教員室) 共通教育科目棟 3F 石貫教員室

【科目概要】

英語Ⅴは、英語Ⅰ，Ⅱ，及びⅢで修得した言語知識・言語能力を、**科学技術分野での研究や就職後の仕事へ活かし、異文化理解**に役立てていくための科目である。主に、**進学希望者を対象**とし、より専門的で高度な英語の**知識と運用能力の修得**をサポートする。

科学技術系を含め様々な分野における英語に触れるとともに、**国際的コミュニケーションの基礎力**を伸長していくことをねらいとする。文章読解、聴解、また初歩的なプレゼンテーションなども行う。

【授業方針】

授業は、教科書を用いた講義形式で進めていく。講義に加えて、**4 技能 (speaking, listening, reading, writing) を実践的な運用能力へ発展させるために**、音読練習、ディクテーション、既習語彙・構文の口頭練習等の**トレーニング**を行う。随時、**文法事項・語彙の小テスト**を実施する。

また、進度に応じて**プレゼンテーション**のトレーニングをおこなう。プレゼンテーションに関しては、今までの英語学習で培った知識を用いながら、相手に理解してもらえるような**スピーチ**および**プレゼンテーション**をおこなう**トレーニング**をする。また適宜**CALL 教室の機器**も活用した**トレーニング**も行う。

【学習方法】

毎回、予習・復習箇所とその取り組み方を指示する。短期間に集中的に工業英語の基礎を習得するために、十分な予習、復習を行った上で授業に臨むことが求められる。

【達成目標】

1. **さまざまな英文**を読み、**内容を正確に理解**することができる。
2. **さまざまな分野について**内容を理解した英文を、**正確な発音、イントネーションで音読**することができる。

3. **さまざまな分野についての英語**を聞き、**正確に内容を理解し、また書き取る**ことができる。
4. **習得した言語材料や英語表現を用いて**、自分の意見を**英語で表現**できる。

【教科書等】

教科書：『Duo セレクト：厳選英単語・熟語 1600』 鈴木陽一 (アイシーピー)

『ESP にもとづく 工業技術英語』 野ロジュディー 深山晶子 (講談社)

プリントを適宜使用

【授業スケジュール】

第1週：ガイダンス

第2週～8週：読解、聴解、英作文トレーニング、前期中間試験

第9週～15週：試験返却・解説、読解、聴解、英作文トレーニング、(前期末試験)

第16週～23週：英作文トレーニング、後期中間試験

第24週～30週：試験返却・解説、英作文トレーニング、(学年末試験)

【関連科目】

1～4 年次までの英会話を含む英語科目、技術英語、専門英語。専攻科における上級英語とスピーチコミュニケーション。

【成績の評価と評価基準】

* 目標項目は定期試験と小テストで確認する。

* 最終成績は定期試験を 80%、提出物や小テストの評価を 20%として算出する。授業担当者およびその授業の進度や、学習の習熟度により、算出割合を変更することがある。60 点以上を合格とする。なお、教員が必要と認めた時、再試験を実施する場合がある。

【学生へのメッセージ】

- ・ 国際社会では、英語で読み書きができるだけでは通用しません。授業での音を介した言語活動に積極的に取り組み、運用能力の基盤を作ってください。
- ・ 講義への質問や要望はメールでも随時受け付けるので活用すること。来室の場合は、授業や会議のスケジュールを通知するので、確認すること。

【授業科目名】 進路支援セミナー（数学）**Seminar C1****【対象クラス】** 5 年全学科（1 クラス開講）**【科目区分】** 特別選択科目・選択
（教育目標との対応：E-2）**【授業形式・単位数】** 演習・1 単位**【開講時期・授業時数】** 前期・30**【担当教員】五十川 読**（共通教育科）
（教員室） 共通教育棟 2F 五十川教員室**【科目概要】**

本科目では、数学Ⅰ、ⅡおよびⅢで学習してきた基礎的な事項の確認と、より高度な数学関連項目へのアプローチができるような演習を行う。

また、卒業後の進路で生かすための数学的思考力を伸ばすことを目標として、学生一人一人が自学自習を行うことにより、学習の習慣や方法が身につくように支援する。

【授業方針】

本科目では、数学Ⅰ、数学Ⅱおよび数学Ⅲを基礎とした複雑な計算やいろいろな学習内容が複合した問題などを取り扱う。必用に応じて既習事項の解説も行う。また、これらの演習通じて数学的思考力の伸長を目指す。

【学習方法】

既に学んだ内容を、いろいろな場面に適用して問題を解くことで、数学的思考力を強化していく。また、学生一人一人が自学自習を行う。

【達成目標】

1. 卒業後の進路で生かすための数学的思考力を伸ばす支援を行うという本科目の趣旨を理解し、自分から積極的に参加し自己研鑽に活用できる。
2. 基礎的内容を習熟することの大切さと、その知識を使ってより複雑な問題を考えていく学習方法を身につける。

【教科書等】

教科書：新編 高専の数学 1、2、3
（第 2 版・新装版）

田代嘉宏・難波完爾編 森北出版

問題集：ドリルと演習シリーズ

微分積分、線形代数

日本数学教育学会 高専・大学部会

教材研究グループ TAMS 編 電気書院

【授業スケジュール】

数学Ⅰ、数学Ⅱおよび数学Ⅲの基礎的内容の確認と、より高度な数学関連項目の問題などを取り入れながら、数学的思考力の伸長をはかる形式で 15 週の演習を行う。

【関連科目】

本科 1 年 数学Ⅰ

本科 2 年 数学Ⅱ

本科 3 年 数学Ⅲ

【成績の評価方法と評価基準】

本科目の取り組み状況を、担当教員によるポートフォリオにより評価する。

また、評価は S、A、B、C、F で行う。

【学生へのメッセージ】

○基礎定着セミナー 1 は「自学自習」を重要視して実施されているので、学生諸君は積極的にこの科目を活用してもらいたい。

○基本問題を何回も正確に解くことが大切です。また、講義や演習に関する質問は、数学科全員で対応しています。放課後を利用し気軽に声をかけてください。

【授業科目名】進路支援セミナー（英語）

Seminar C2

【対象クラス】 5 年全学科（1 クラス開講）**【科目区分】** 特別選択科目・選択
（教育目標との対応：E-2）**【授業形式・単位数】** 演習・1 単位**【開講時期・授業時数】** 後期・30**【担当教員】**

宇ノ木 寛文（共通教育科）

（教員室）共通科目棟 2F 宇ノ木教員室

石貫 文子（共通教育科）

（教員室）共通科目棟 3F 石貫宇ノ木教員室

【科目概要】

このセミナーは、本校で学習してきた英語の基礎的事項を卒業後の進路で生かすために、より実践的な英語運用力を伸長することを主題とし、学生一人一人が自学自習し、応用的学習の習慣や方法が身につくよう支援を行うことを目的に開講されている。

【授業方針】

本演習では、実践的英語運用力の定着を図るために、問題集を用いた演習に加えて、音読練習・ディクテーション等のトレーニングを行う。また、演習では、TOEIC の問題集なども用い、資格試験に関する学習方法・習慣の確立を目指した指導も行う。実施にあたっては、学年にかかわらず受講できるが、受講希望者が多数の場合は、対象学年を優先的に受講者を決定する。

【学習方法】

・毎回、授業で使用するハンドアウト等から予習、復習箇所とその取り組み方を指示する。演習活動を有意義なものにするために、十分な予習、復習を行った上でセミナーに臨むことが求められる。

【達成目標】

1. 実践的英語運用力を伸長するという本セミナーの趣旨を理解し、自分から積極的に本セミナーに参加し、これを自己研鑽に利用する。
2. 与えられた教材を利用して、自分で問題を考え、自分で解決するまでの姿勢を身につける。
3. 演習の繰り返しにより帰納的に理解が深められることもあることを知り、普段からの積み重ねの大切さを学び、学習習慣の確立に役立てる。
4. TOEIC などの資格試験の形式に習熟し、学習方法などを身につける。

【教科書等】

教科書、副教材共に教員より配布するハンドアウトを用いる。

【授業スケジュール】

本校で学習した英語に関する受講生の習熟度に応じて、必要な場合には既習の事項も取り入れながら、問題演習を通じて実践的運用力の伸長をはかる形式で15週の演習を行う予定である。

【関連科目】

このセミナーは本校で学習したあらゆる英語科目で習得する事項の定着を前提とした科目である。

【成績の評価と評価基準】

目標項目1、2、3、4とも、各週の演習における取り組み状況を評価した教員によるポートフォリオにより評価する。

【学生へのメッセージ】

一般科進路支援セミナーは、「自学自習に基づく実践的な知識の運用力の養成」をメインテーマとして実施されるので、学生諸君は積極的にこのセミナーを利用してもらいたい。

【授業科目名】進路支援セミナー（小論文）**Seminar C3****【対象クラス】** 4～5年全学科**【科目区分】** 特別選択科目・選択
(教育目標との対応：E-2)**【授業形式・単位数】** 演習・1単位**【開講時期・授業時数】** 後期・30**【担当教員】****道園 達也**（共通教育科）

（教員室） 一般科目棟1F 道園教員室

時松 雅史（共通教育科）

（教員室） 一般科目棟1F 時松教員室

小林 幸人（共通教育科）

（教員室） 一般科目棟1F 小林教員室

遠山 隆淑（共通教育科）

（教員室） 一般科目棟3F 遠山研究室

【科目概要】

このセミナーは、進学や就職の際に重要となる文章力の向上を目指して開講される。文章力は、技術者にとって必要なコミュニケーション能力の一つである。文章を用いたコミュニケーションは、自らを反省的に捉え返す自己分析の技法、様々な社会的な問題や課題に関する分析能力や自ら考察した事柄を分かりやすくまとめる能力を必要とする。このセミナーでは、小論文演習を通じて、それらの能力向上を目指す。

【授業方針】

いくつかのテーマを設定し、文章作成指導の後、受講者自身による情報収集・文章作成等の演習を行う。また、それぞれの受講者の担当教員による反復的な個別指導を行うことによって、文章力の向上を図る。

なお、セミナーの実施形態の都合上、受講者数に制限を設けることがある。

【学習方法】

- ・ 文章力を身につけるためには、やはり普段から文章を書くことが重要です。
- ・ また、小論文対策として、日頃から時事問題や自分の専門分野に関する問題などに注意すること。
- ・ 漢字の知識や基本的な文章作法などは、普段から文章を書き、読むことで身につけるように心がけてください。
- ・ 進路支援を目的としていますので、自分の進路選択に関わる情報を積極的に収集するようにしてください。

【達成目標】

1. □必要な情報を検索する方法を理解し、それらを収集・整理することができる。
2. □様々な課題について、問題点を理解し、それらを整理して文章にまとめることができる。
3. □自分の考えを分かりやすく人に伝えることができる。

【教科書等】

特に指定しない。

【授業スケジュール】

ガイダンスの後、担当教員と受講者との間でスケジュールを決定する。

【関連科目】

本科4年生「国語表現」他、国語系および社会系科目と関連する。

【成績の評価と評価基準】

左記学習・教育目標について、提出課題を用いて評価する他、課題の提出状況や個別指導での面談状況を考慮し、S、A、B、Cで成績を評価する。

【学生へのメッセージ】

一般科進路支援セミナーは、「自学自習に基づく実践的な知識の運用力の養成」をメインテーマとして実施されるので、学生諸君は積極的にこのセミナーを利用してもらいたい。

【授業科目名】一般特別セミナー(外部資格単位)

Extra Seminar

【対象クラス】全学年・全学科

【科目区分】特別選択科目・選択

(教育目標との対応：E-2)

【単位数】最大4単位

【担当教官】久保田 智 ほか (共通教育科)

(教員室) 一般科目棟 2F 久保田教員室

【科目概要】

この科目は、資格取得などを通して、技術者としての自主性を高めさせることを目標としている。本セミナーでは、学生自身が目標をそれぞれで設定することを基本とし、目標を達成したときに単位として認定を行うプログラムである。代表的な資格をスケジュールに示す。

なお、このシラバスに記載しているもの以外の資格については、学生の申請に応じて教務委員会で審議し、認定を行うこともあります。

【授業方針】

本セミナーは、資格取得等に向けた学生の自主的な取組に対して単位を認定するプログラムです。到達目標は各自で設定し、これを達成できることを単位認定の基準とします。各自、自分の目標に対して努力を行ってください。

【達成目標】

1. 各自が**到達目標**を設定し、目標達成のために**計画**を立てられる。
2. 設定した目標を達成するために必要な**資料や情報**を集め、それらを取組の中で**活用する**ことが出来る。
3. 目標を達成するまでに必要な課程の中で**弱点を克服する**ことが出来る。
4. 当初設定した**目標を達成する**ことが出来る。
5. 取り組みが修了した段階で、簡単に**報告書(レポート)**としてまとめることが出来る。

【教科書等】

教科書：特に指定しない

参考書：適宜、教員と相談すること

【授業スケジュール】

代表的な資格試験について以下に挙げる。このほかのものについては、学生の申請によって教務委員会で審議する。

○漢字能力技能検定 1単位

認定基準：2級以上

○実用英語技能検定 1単位

認定基準：準2級、ただし2級を5年時に取得した場合は、2級も特別セミナー単位として認定する。

○実用数学技能検定 1単位

認定基準：2級以上

【関連科目】

「専門特別セミナー」

【成績の評価方法と評価基準】

本セミナー単位は、学生からの申請書が提出された後に審議する。また、単位発効は申請された段階で審議し、発効は年度ごととする。

【学生へのメッセージ】

本セミナーは、学生の向上心に対して単位を認定するものです。積極的に取り組んでください。

また、質問・相談等は随時受け付けます。関係する教員のスケジュール等を確認して、来室してください。

※注意事項

1. 単位認定には自己申請が必要です。申請書類を学生課教務係で受け取り、必要事項を記入のうえ、資格の合格証明書を添えて、学生課教務係に提出してください。
2. ある資格の下位(上位)のランクで単位を取得した後、同じ資格の上位(下位)のランクを取得しても単位は認められません。
3. 4年次より以前の実用英語技能検定の2級の合格に対しては、「一般科特別セミナー」ではなく、「英語Ⅳ」の単位として2単位が認定されます。
4. 不明な点は担当教員に尋ねてください。